

「住総研 研究選奨」受賞論文 選評

出づくりの村「語り部」による二拠点型居住の伝承
—長野県阿智村清内路集落におけるエコミュージアム活動から—（自由テーマ）
NO. 1509 主査 大原一興
委員 藤岡泰寛、江水是仁

（選奨評）

本研究は次の点において優れている。

第一に、研究課題の設定である。「出づくり」という今となつては極めて珍しくなつた居住形態・居住文化の現代的意義を見出している炯眼に敬服する。

第二に、調査方法の多面性・包括性である。文献資料収集調査、及びヒアリングを含めた現地実態把握により、研究対象がもつ多側面が明らかにされ、包括的な視点をもって考察を進めることに成功している。

第三に、その論理展開の確かさである。本研究の成果はエビデンスをもとに構築されている。複数の既往資料を収集し、その整合性についても事前に検討したうえで、現地調査に入っているその手法は誠に手堅い。将来、本研究に関心をもつた他研究者が、本研究の道筋を辿ることによって、反証可能性を検証する機会を保証している。

第四に、未来への洞察が試みられている。語り部による伝統文化の継承について、ヒアリングやアンケート調査も参照しつつ、貴重な洞察を提示している。

以上のように本論文の完成度は極めて高く、それゆえに「研究・実践選奨」に値すると評価した。

「住総研 研究選奨」受賞論文 選評

創作活動の場を核とした複合空間における共創と集客拠点形成
—オランダの De Ceuve1 における空間マネジメントの実態調査— (重点テーマ)
NO. 1505 主査 田口陽子

委員 柄沢祐輔

(選奨評)

本研究は、次のような点で秀逸である。

第一に、都市の持続可能性を考察するにあたって、包括的な視点にたって研究を進めていることである。環境的持続可能性について、日本でも昨今話題になっているいわゆる **brown field** の及び循環型環境システムに焦点をあてて調査・考察をしている。社会的持続可能性については、文化芸術活動の実態に焦点をあてて分析している。経済的持続可能性については、エリアマネジメントの運営・経営実態に着目し調査・分析している。環境・社会・経済の三側面に目配りをして包括的に実証研究をすすめた例は少なく、貴重である。

第二に、こうした各側面への目配りをふまえて、創作活動やその場が、都市の持続可能性に対して保つ意味を考察していこうとしていることである。いわゆる **in-depth-interview** をもとにし現地調査は、主題である「共創、拠点形成」を考える上での貴重な示唆を提供することに成功している。

以上の点に鑑みて、本研究は「研究・実践選奨」に価すると評価できる。